



RCLレポート 2019

レスポンシブル・ケア活動報告



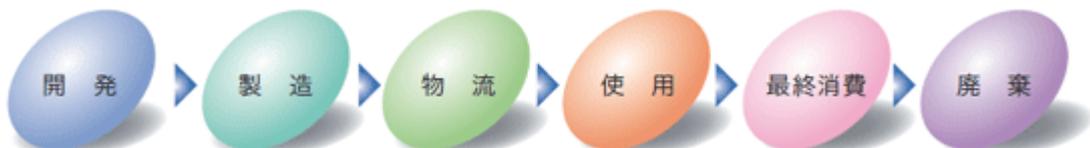
目次

□ トップメッセージ	2
□ 鹿島工場の概要	3
□ レスポンシブル・ケアの基本方針	4
□ 鹿島工場の RC 活動	5～10

レスポンシブル・ケアとは



化学物質を扱う企業が、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、その成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行うこと。この活動を化学工業界では『レスポンシブル・ケア(Responsible Care; RC)』と呼んでいます。



□ トップメッセージ

➤ 鹿島工場長メッセージ

三菱ガス化学株式会社鹿島工場は、鹿島臨海工業地帯の一員として1978年に操業を開始し、2018年11月に創業40周年を迎えることができました。これもひとえに皆様のご支援による賜物と、この場を借りて御礼申し上げます。

現在、鹿島工場では、過酸化水素とポリカーボネート樹脂を生産しています。両製品とも、社会のニーズと期待に応え、全ての顧客の満足と信頼を獲得するため、品質の維持、保証に対して万全を期しております。

当工場では、弊社の安全理念である「事業活動の最優先は安全の確保」に基づいた年間計画を作成し、「無事故・無災害と環境保全」を目標にRC活動を推進しています。無事故・無災害の実現に向けて、あらゆる生産活動において、保全技術の向上と定期的な設備の保全に取り組むとともに、環境保全についても、定められた法令を遵守するのみならず、消費エネルギーの削減に取り組み、環境負荷の低減を進めています。これらの活動を通じて、地球環境との調和および地域社会からの信頼性向上に努め、暮らしやすい社会づくりに貢献すべく、工場に携わる全ての人々が協同してRC活動に取り組んでいます。

本レポートでは、当工場のRC活動とその成果を紹介します。今後もより充実したRC活動を推進してまいりますので、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



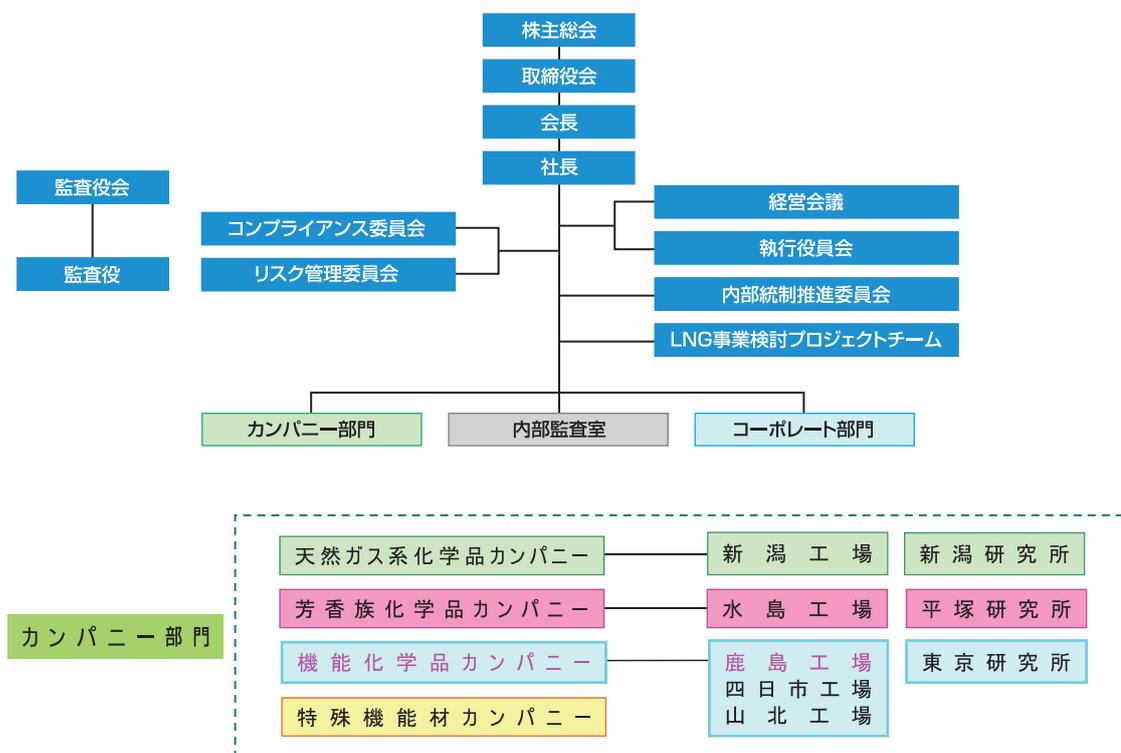
三菱ガス化学(株) 鹿島工場
執行役員工場長

木暮直毅

□ 鹿島工場の概要

➤ 三菱ガス化学の構成

三菱ガス化学は、四つのカンパニーとカンパニーをサポートするコーポレートから構成されています。各カンパニーの製品は多岐に亘ります。その中で鹿島工場は、機能化学品カンパニーに属しています。



➤ 鹿島工場の概要

鹿島臨海工業地帯に当工場の建設が始まったのは、1977年(昭和52年)でした。

東部コンビナートの近隣各社から、多様な原料や電力・蒸気などのユーティリティを調達し、過酸化水素とポリカーボネート樹脂を製造しております。過酸化水素は、消毒・殺菌・漂白や電子材料の洗浄に、カーボネート樹脂は、光学材料や自動車用部品に幅広く利用されており、生活に便利さや快適さを提供する化学製品として広くご愛顧戴いております。



三菱ガス化学(株) 鹿島工場の全景

所在地	茨城県神栖市東和田 35 番地	敷地面積	311,000 m ²
従業員数	215 人(平成 30 年 12 月現在)	生産品目	過酸化水素、ポリカーボネート樹脂

□ レスポンシブル・ケアの基本方針

三菱ガス化学は、「持続可能な開発」「循環型社会の構築」「安全操業」を重要な経営課題として事業活動を行い、環境・安全の確保のためレスポンシブル・ケア(RC)活動を推進しています。

下表の基本方針に従い、RC 中期計画、年間計画に基づく PDCA サイクルによる継続的改善を図っています。

項目	基本方針
I. 労働安全衛生	操業における健康と安全の確保
II. 保安防災	現場における保安と安全の確保
III. 環境保全	環境負荷の削減と持続可能な社会発展への貢献
IV. 化学品・製品安全	化学品の取扱・使用・廃棄における安全の確保
V. 物流安全	原料・製品の物流における安全の確保
VI. 社会との対話	ステークホルダーからの信頼醸成
VII. RC全般	MGCグループとしての環境・安全活動の推進 環境・安全管理システムの継続的改善 安全保障輸出管理の遂行



□ 鹿島工場の RC 活動

➤ 年間目標と重点項目

基本方針: 無事故・無災害と環境保全

年間目標: 安全成績の向上と環境管理目標の達成

2019 年 鹿島工場 RC 活動目標

コード	活動目標 & 計画(抜粋)	主な具体的活動
◆ 労働安全衛生	①安全で安心できる職場の実現 ②指差し呼称徹底キャンペーン	①日常的な安全活動の継続によるコミュニケーションの充実 ②3か月ごとにテーマを設定し ついでうっかりによる災害を撲滅する
◆ 保安防災	①TPM活動推進によるトラブル未然防止と安定運転の継続 ②漏洩トラブルの予防 ③リスクアセスメントの結果の検討	①各専門部会を中心としたボトムアップによる現場力、自主保安力の向上 ②工事安全化手続きの徹底 ③TPM安全部会による各職場RA結果の検討
◆ 環境保全	①ISO14001 3か年計画(2018~2020年度)の推進	①2019年度環境目標管理年度計画の遂行
◆ 化学品・製品安全	①SDS最新版管理	①SDS最新版管理の継続 顧客からの環境関連物質調査依頼対応
◆ 物流安全	①災害防止協議会輸送部会の活動推進	①防災協輸送部会を通じた事故情報の共有と水平展開の推進
◆ 社会との対話	①鹿島地区RC連絡会への参加 ②コンビナートとの連携強化	①第11回鹿島地区RC地域対話参加 ②コンビナート協議会、行事等への参加
◆ RC全般	①環境・安全活動の推進 ②環境・安全管理システムの継続的改善 ③安全保障輸出管理の遂行	①海外輸出審査の徹底 ②統合内部監査による確認 ③輸出管理教育の実施

TPM … 全員参加の生産保全

SDS … 製品安全データシート



コンビナート合同防災訓練



化学物質リスクアセスメント

労働安全衛生・保安防災

三菱ガス化学 安全理念

事業活動の最優先は安全の確保

安全は事業活動の基盤であり、安全確保は社会への責務である

➤ AZプロジェクトから Bridge 活動へ

弊社新潟工場で 2007 年 12 月に発生した重大事故を契機に、全社を挙げて事故撲滅(Accident Zero: 略称 AZ)プロジェクトを開始。安全文化の醸成と人材育成を重要テーマに 2013 年度まで活動を展開しました。その後、2014 年度からは、成果を未来につなげるという意味を込めて Bridge 活動へ継承し、さらに、2018 年度からは Bridge-II 活動へと発展させ、保安力と現場力の向上を推進しています。

➤ TPM 活動

2006 年から TPM(Total Productive Maintenance & Management: 全員参加の生産保全・生産経営)活動を導入しています。

TPM 基本方針: 故障ゼロ、不良ゼロを目指し、信頼性の高い製造現場を創出する

TPM 目的: 全参加の活動で、「安全で競争力の高い鹿島工場」の実現

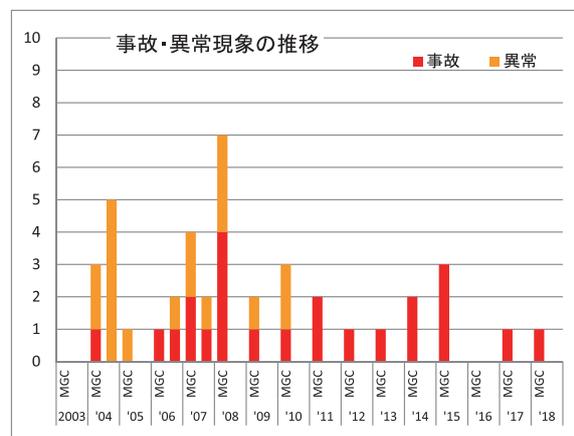
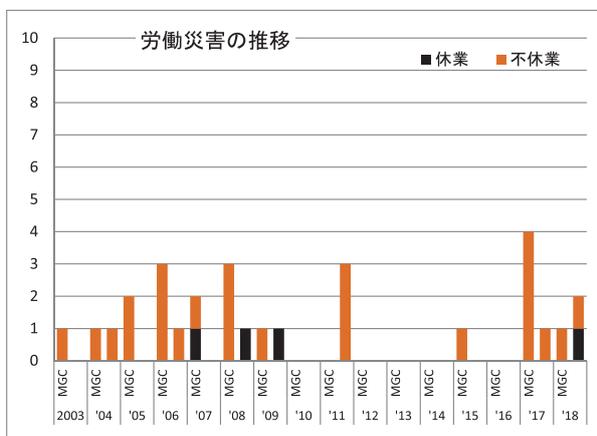
➤ 協力会社の安全管理

鹿島工場では協力会社 23 社と災害防止協議会を組織し、定例会のほか工場集会や教育にも参加してもらい、安全意識の向上と情報共有に努めています。また、工事が多くなる定期修理期間は、連絡会議、パトロール等を毎日実施し、コミュニケーションを図り安全管理を強化しています。

➤ 安全成績

以上の安全活動により、無事故・無災害を目指してきましたが、2018 年は約 9 年ぶりに協力会社において休業災害が発生しました。他にも不休業災害が散見され、安全成績は決して満足できるものではありません。これらは、つい・うっかりといった気の緩みも背後要因にあると考え、2019 年はヒューマンエラー防止のため、指差し呼称徹底キャンペーンを展開し、安全成績の向上を図っていきます。

これからも一人ひとりが感性を磨き、全員参加で事故ゼロ、災害ゼロの実現を目指し続けます。



➤ 教育・訓練

過去に発生した自社や他社の災害事例を考察し、事故の未然防止と万一に備えた自衛防災活動の確認と継続的な見直しや改善を進めて自主保安力の強化を目指しています。

鹿島工場は比較的若手社員が多く、定期的な防災訓練と教育を繰返し、将来を担う人材育成に注力しています。



総合防災訓練



避難訓練



消火栓操法訓練



フォークリフト教育



化学プラント事故防止実践講座

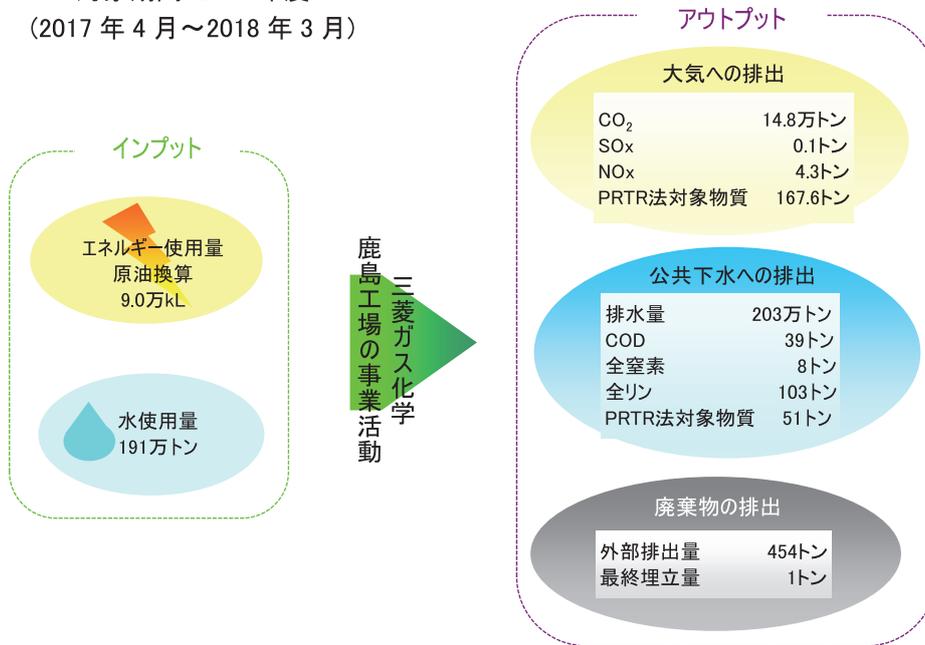


新入社員教育

環境保全

下図は、2017年度の鹿島工場の事業活動における環境負荷をインプットとアウトプットで表しています。インプットの効率的利用と、アウトプットとして環境中へ排出される物質の排出量削減を進めて環境保全に取り組んでいます。

対象期間:2017年度
(2017年4月～2018年3月)

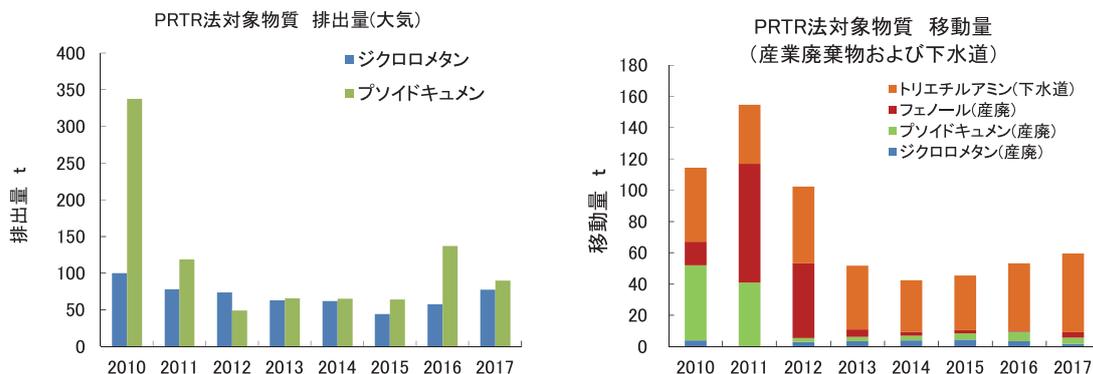


PRTR 制度対象物質

鹿島工場で排出量が多い物質は、主に大気へ散逸するジクロロメタンとプソイドキュメンです。

回収設備が本格稼働した 2011 年度以降、プソイドキュメンの排出量が大幅に改善し、この状況を維持しています。また、2013 年度から産廃処分していた製造過程で副生するフェノールを再利用することにより、移動量を削減することができました。

排出量、移動量ともに製品の生産量と相関するため、現状では更に大幅な削減は難しいですが、今後も化学物質の適正管理を推進して行きます。



PRTR(Pollutant Release and Transfer Register) 制度

有害性のある化学物質の環境への排出量及び廃棄物に含まれての移動量を登録して公表する制度

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の推進に関する法律(化管法)の制度のひとつ。事業者が、大気、水域、土壌への化学物質の排出量および廃棄物や下水道への移動量について把握し、行政機関へ報告。そのデータを集計して社会に公開する制度。2002 年度から開始。政令改正に伴い、2010 年度報告分より対象物質が 354 物質⇒462 物質へ拡大(第一種指定化学物質)

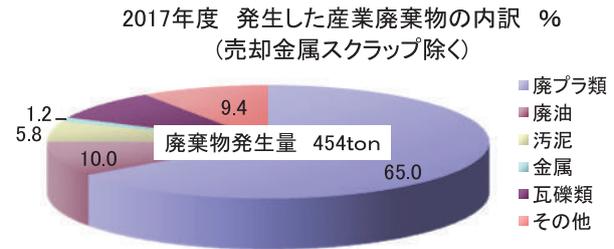
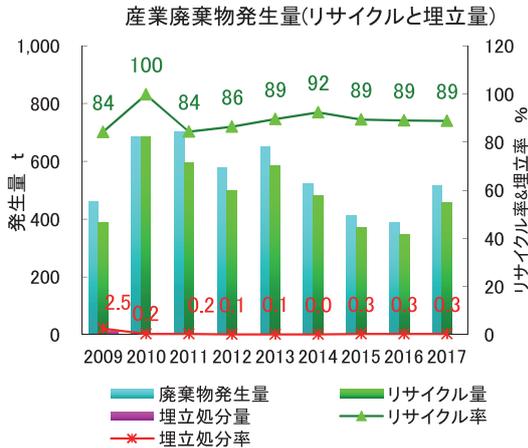
産業廃棄物

鹿島工場の産業廃棄物はすべて外部業者に処理を委託しています。

産業廃棄物は発生抑制(リデュース)、再利用(リユース)、再資源化(リサイクル)の3R推進を掲げ、リサイクル率の向上と埋立処分量の削減に取り組んでいます。

リサイクル率(目標 80%以上)、埋立処分量(同 0.3%以下)ともに良好で目標を達成しました。

ただし、2017年度は、生産量増加に伴い、廃棄物発生量も増加しております。



化学品・製品安全と物流安全

▶ 化学品の安全性情報の提供

鹿島工場では製品のほか取扱う原材料や中間体の SDS(製品安全データシート)を完備し、関係者へ化学品の安全性情報を提供しています。

工場から出荷される製品の輸送中の事故・災害に備え、適用法令、性状、応急措置や通報連絡先などを記載したイエローカードを輸送会社へ配布し、輸送時の携帯を徹底しています。



過酸化水素の GHS 表示ラベル(左)とイエローカード(中)

過酸化水素専用タンクローリー(上)と ISO コンテナ(下)

▶ 環境に配慮した製品

鹿島工場で生産する過酸化水素とポリカーボネート樹脂は、日常生活の中で直接目にする機会は少ないですが、それぞれ省エネ・省資源、低環境負荷、廃棄物削減などの環境性能に貢献する材料として幅広く使用されています。

社会との対話

私たちは社会の一員であることを認識し、地域社会とコミュニケーションを図り共生と信頼性向上に努めます。

➤ RC レポートの発行

定期的に鹿島工場の RC レポートを発行し、安全や環境保全活動への取組みについて情報を発信しています。

また、国際機関や行政機関、非政府団体の各種調査依頼に協力し、情報開示に努めています。



➤ 地域社会との交流

三菱ガス化学は、日本化学工業協会 RC 委員会の会員として鹿島地区 RC 連絡会に加盟し、1996 年の初回から鹿島地区 RC 地域対話に参加しています。

また、地域社会との交流としてコンビナートで取組んでいる周辺道路の清掃活動や交通安全行事、その他自治体行事へ参加しています。



第 10 回 RC 地域対話



近隣行政地区幹線道路清掃



□ 制作部署

三菱ガス化学株式会社 鹿島工場
環境保安室

〒314-0102
茨城県神栖市東和田 35 番地

TEL 0299-96-3127

FAX 0299-96-5686